

生活行動關係

【生活行動関係】

1 学習・自己啓発・訓練

(1) 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率は31.3%で、5年前より2.2ポイント上昇

「学習・自己啓発・訓練」について、過去1年間（令和2年10月20日～令和3年10月19日。以下同じ。）に何らかの種類の活動を行った人（10歳以上）の数（以下「行動者数」という。）は29万人で、10歳以上人口に占める割合（以下「行動者率」という。）は31.3%となっている。男女別にみると、男性が13万2千人、女性が15万8千人となっており、行動者率は男性が30.1%、女性が32.3%で、女性が男性より2.2ポイント高くなっている。

平成28年と比べると、行動者率は2.2ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が1.7ポイント、女性が2.6ポイントそれぞれ上昇している。（表1-1）

過去20年間の行動者率の推移をみると、平成18年に低下した後は平成28年まで横ばいで推移し、令和3年は上昇している。（図1-1）

年齢階級別の行動者率をみると、15～24歳及び45～54歳を除く全ての年齢階級で平成28年を上回っており、特に10～14歳、35～44歳の年齢階級で上昇幅が大きくなっている。（図1-2）

表1-1 「学習・自己啓発・訓練」の男女別行動者数及び行動者率
（平成28年、令和3年）

	行動者数(千人)			行動者率(%、ポイント)		
	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減
総数	278	290	12	29.1	31.3	2.2
男	128	132	4	28.4	30.1	1.7
女	150	158	8	29.7	32.3	2.6

図1-1 「学習・自己啓発・訓練」の男女別行動者数及び行動者率
（平成13年～令和3年）

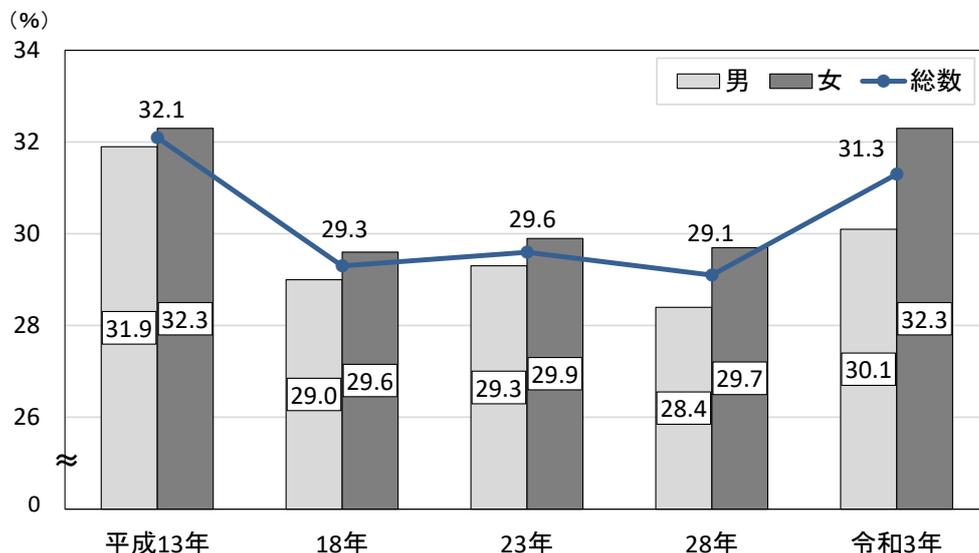
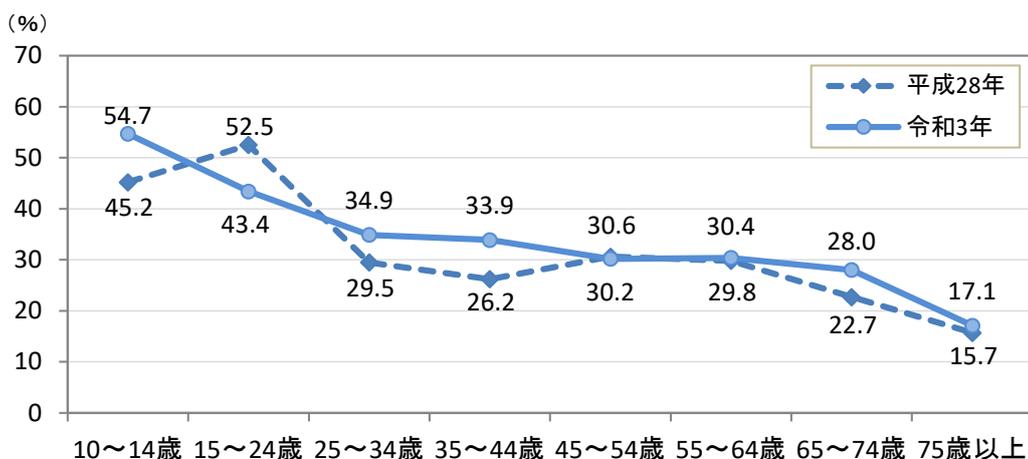


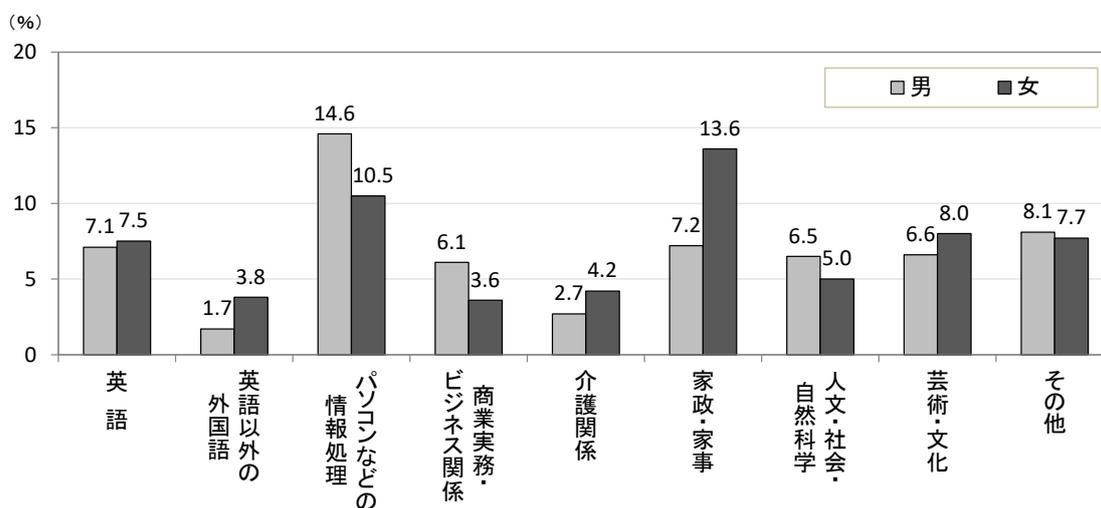
図 1 - 2 「学習・自己啓発・訓練」の年齢階級別行動者率(平成 28 年、令和3年)



(2) 男性は「パソコンなどの情報処理」、女性は「家政・家事」の行動者率が最も高い

「学習・自己啓発・訓練」の種類別に男女別の行動者率をみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が 14.6%と最も高く、次いで「その他」、「家政・家事」の順となっている。女性は「家政・家事」が 13.6%と最も高く、次いで「パソコンなどの情報処理」、「芸術・文化」の順となっている。(図 1 - 3)

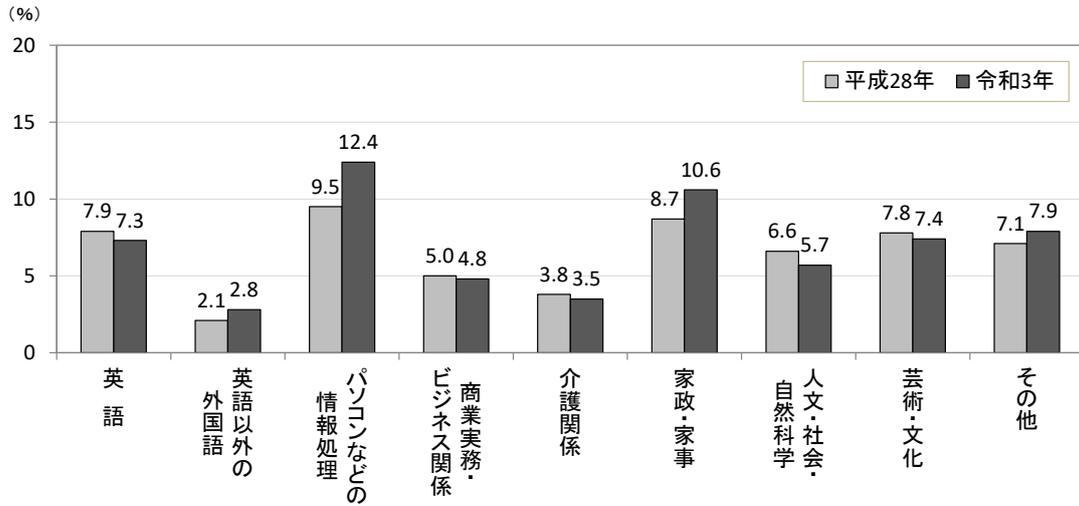
図 1 - 3 「学習・自己啓発・訓練」の種類、男女別行動者率



(3) 「パソコンなどの情報処理」は5年前と比べ2.9ポイント上昇

「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率を平成 28 年と比べると、「パソコンなどの情報処理」の上昇幅が 2.9 ポイントと最も大きく、次いで「家政・家事」、「その他」の順となっている。(図 1 - 4)

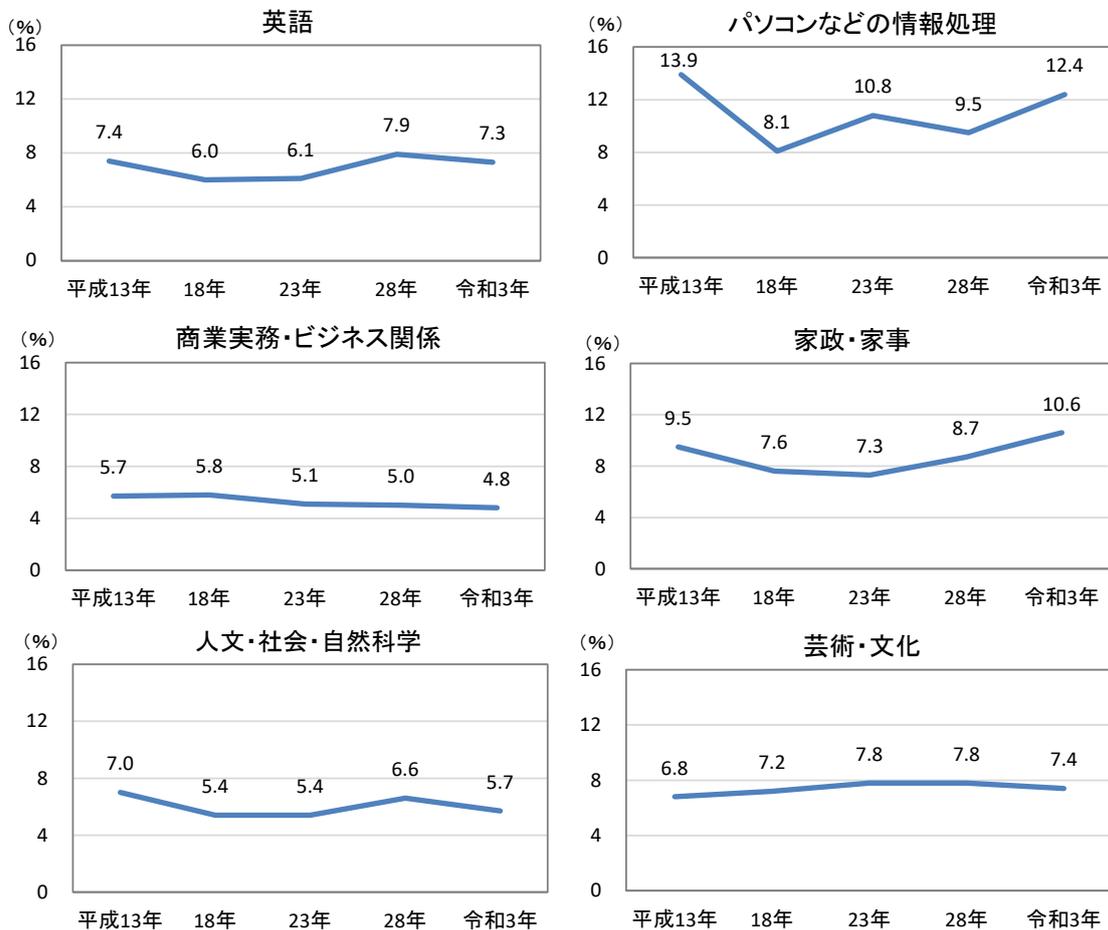
図1-4 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率（平成28年、令和3年）



(4) 「家政・家事」の割合は過去20年間で最も高い

過去20年間で比較可能な「学習・自己啓発・訓練」の行動者率の推移を主な種類別に見ると、「家政・家事」が過去20年間で最も高くなっている一方、「商業実務・ビジネス関係」は最も低くなっている。（図1-5）

図1-5 「学習・自己啓発・訓練」の主な種類別行動者率の推移（平成13年～令和3年）



注) 行動者率の高い6種類を表章

(5) 本県の「学習・自己啓発・訓練」の行動者率は全国に比べて 8.3 ポイント低い

本県の「学習・自己啓発・訓練」の行動者率は 31.3%で、全国の 39.6%に比べて 8.3 ポイント低く、全国 40 位となっている。

種類別行動者率を全国と比較すると、「その他」を除く全ての種類で全国を下回っている。「介護関係」は 3.5%（全国 23 位）で、他の種類に比べて全国順位が高くなっている。（表 1-2、図 1-6、図 1-7）

表 1-2 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率の全国順位

	総数	英語	英語以外の外国語	パソコンなどの情報処理	商業実務・ビジネス関係	介護関係	家政・家事	人文・社会・自然科学	芸術・文化	その他
全国	39.6	12.8	4.2	16.5	8.5	3.6	13.5	9.8	11.2	7.9
宮崎県	31.3	7.3	2.8	12.4	4.8	3.5	10.6	5.7	7.4	7.9
順位	40	44	31	39	47	23	44	47	46	10

図 1-6 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率（都道府県）

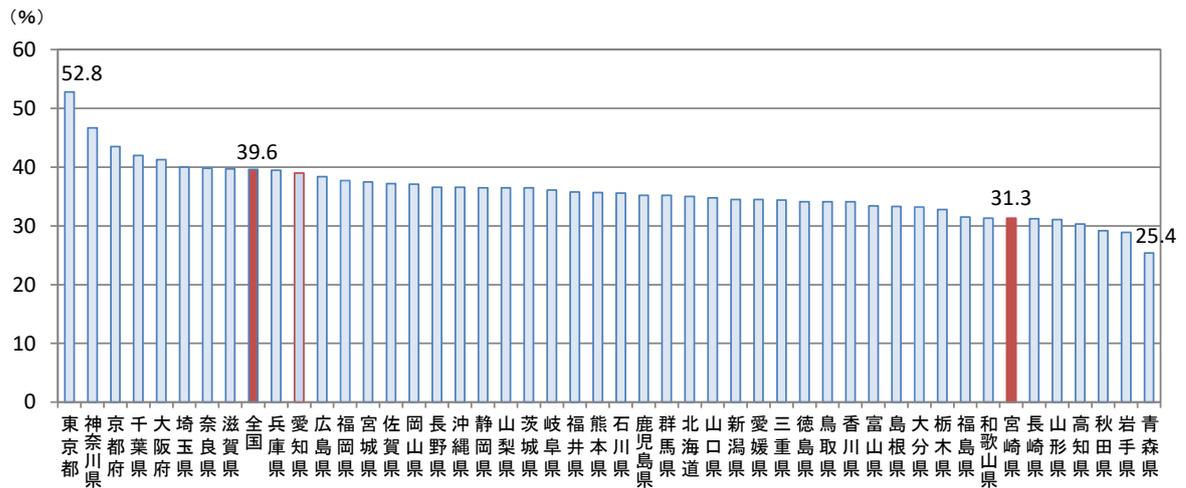
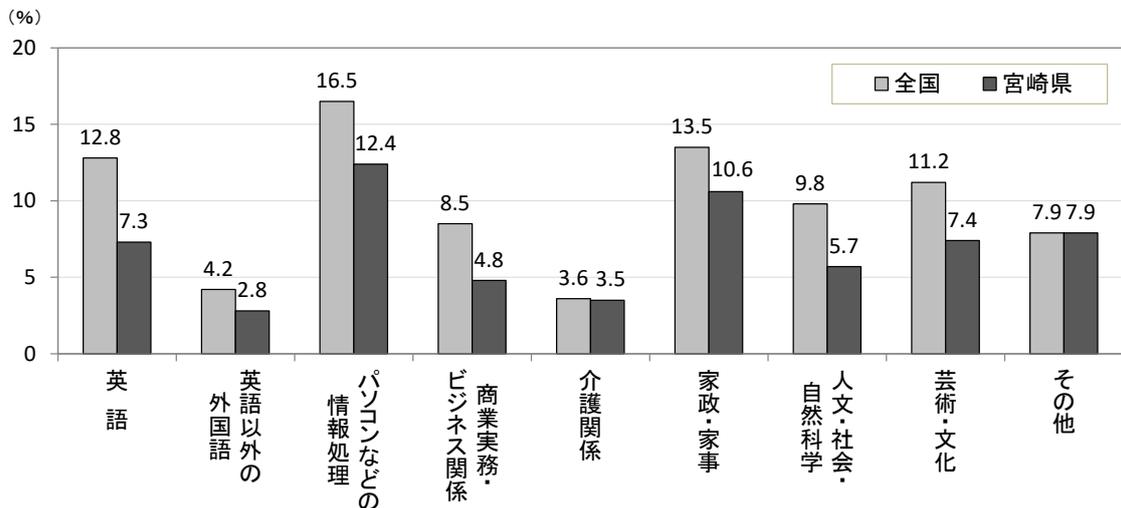


図 1-7 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率（全国、宮崎県）



2 ボランティア活動

(1) 「ボランティア活動」の行動者率は20.1%で、5年前より9.0ポイント低下

「ボランティア活動」の行動者数は18万6千人で、行動者率は20.1%となっている。男女別にみると、男性が9万1千人、女性が9万6千人となっており、行動者率は男性が20.6%、女性が19.6%で、男性が女性より1.0ポイント高くなっている。

平成28年と比べると、行動者率は9.0ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が8.9ポイント、女性が9.2ポイントそれぞれ低下している。(表2-1)

過去20年間の行動者率の推移をみると、平成23年までは低下が続き、平成28年に一旦上昇した後、令和3年は大きく低下している。(図2-1)

年齢階級別の行動者率をみると、全ての年齢階級で平成28年を下回っている。(図2-2)

表2-1 「ボランティア活動」の男女別行動者数及び行動者率
(平成28年、令和3年)

	行動者数(千人)			行動者率(%、ポイント)		
	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減
総数	278	186	-92	29.1	20.1	-9.0
男	133	91	-42	29.5	20.6	-8.9
女	146	96	-50	28.8	19.6	-9.2

図2-1 「ボランティア活動」の男女別行動者数及び行動者率
(平成13年～令和3年)

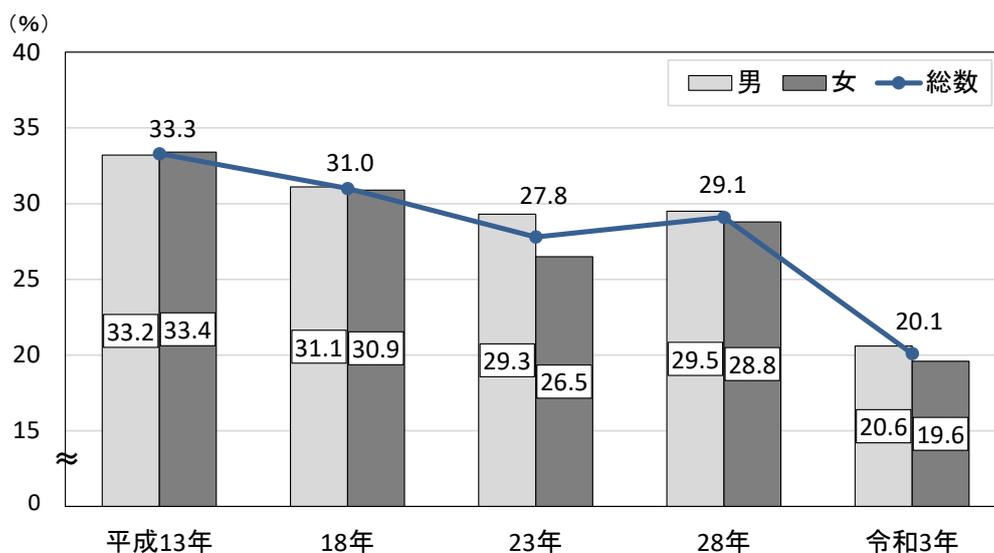
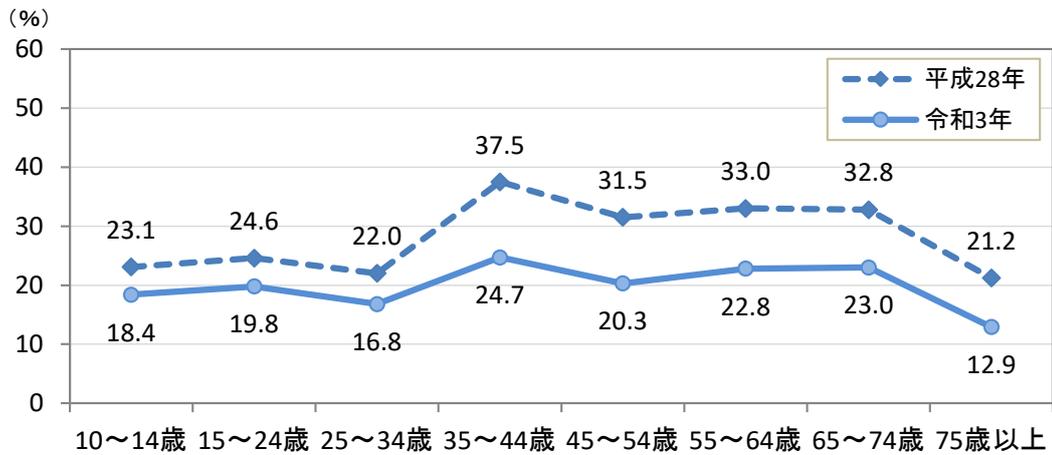


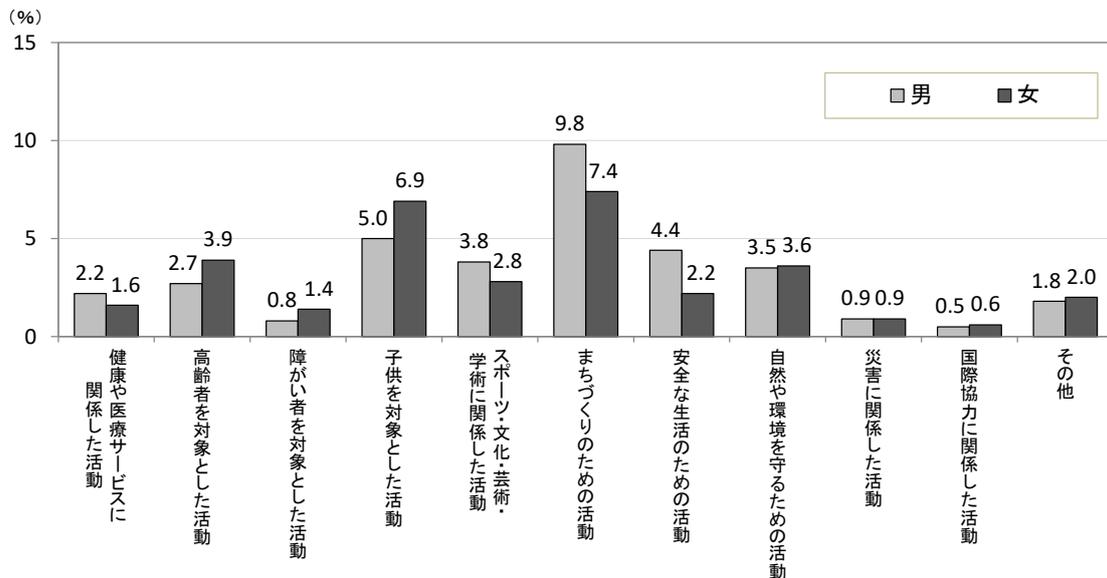
図 2-2 「ボランティア活動」の年齢階級別行動者率(平成 28 年、令和3年)



(2) 男女ともに「まちづくりのための活動」の行動者率が最も高い

「ボランティア活動」の種類別に男女別の行動者率をみると、男性は「まちづくりのための活動」が 9.8%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」、「安全な生活のための活動」の順となっている。女性は「まちづくりのための活動」が 7.4%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」、「高齢者を対象とした活動」の順となっている。(図 2-3)

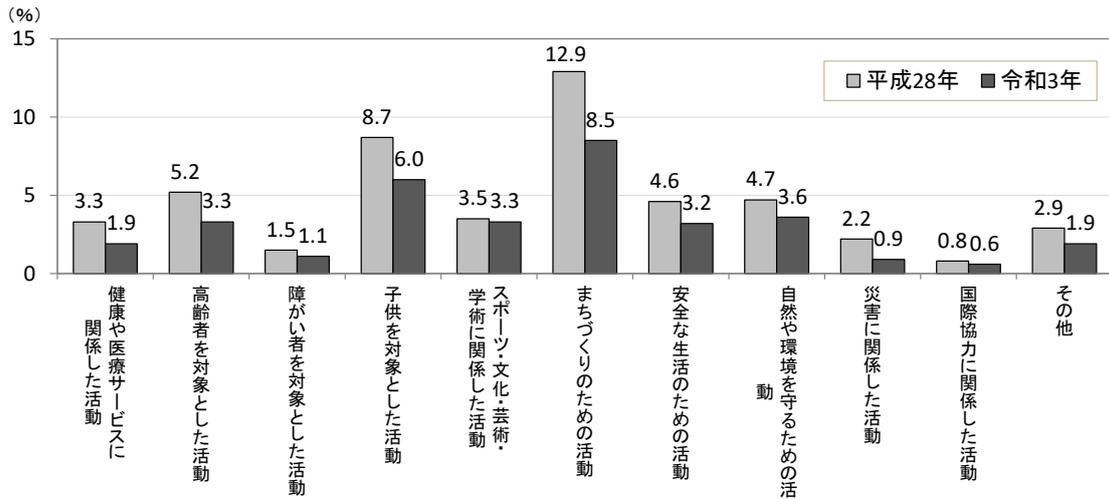
図 2-3 「ボランティア活動」の種類、男女別行動者率



(3) 「まちづくりのための活動」は5年前と比べ 4.4 ポイント低下

「ボランティア活動」の種類別行動者率を平成 28 年と比べると、全ての種類で低下しており、特に「まちづくりのための活動」の低下幅が 4.4 ポイントと最も大きく、次いで「子供を対象とした活動」、「高齢者を対象とした活動」の順となっている。(図 2-4)

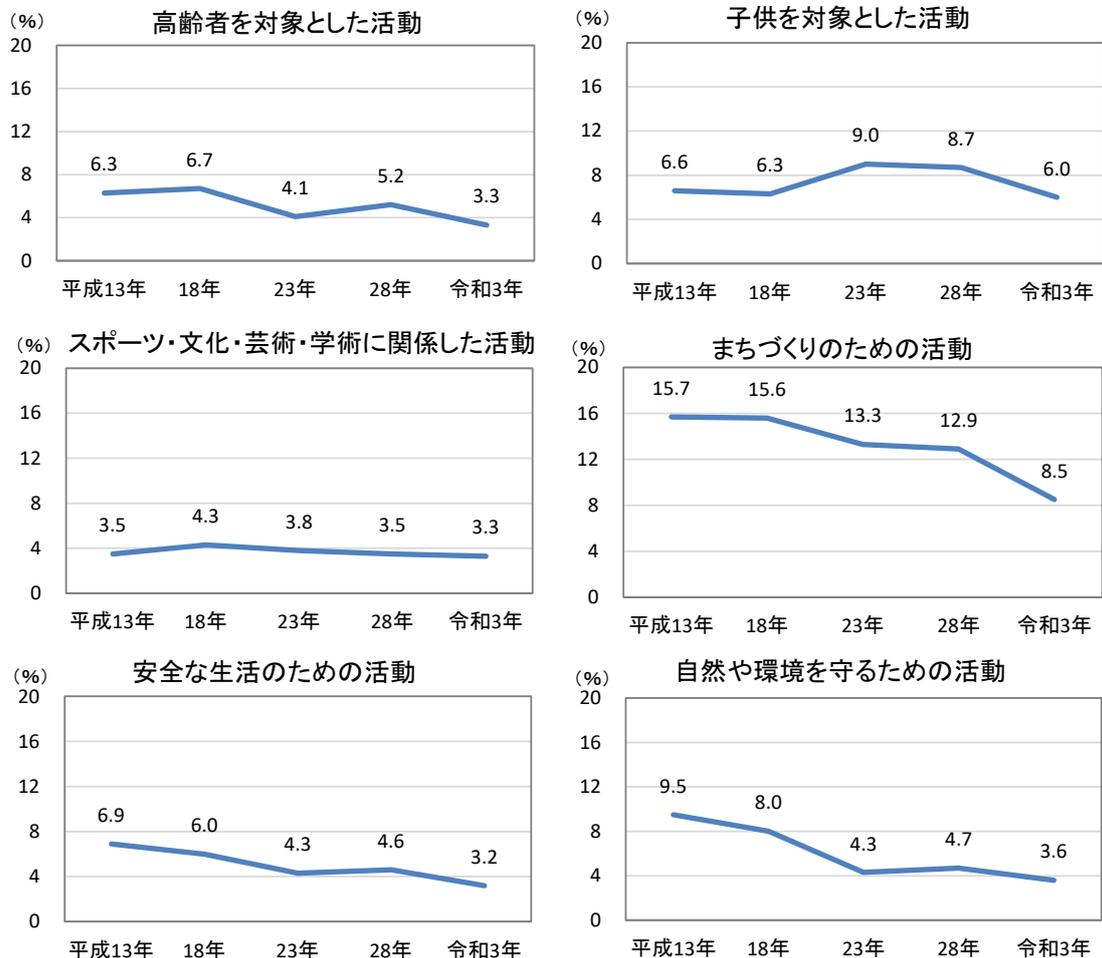
図 2-4 「ボランティア活動」の種類別行動者率（平成 28 年、令和 3 年）



(4) 「まちづくりのための活動」及び「自然や環境を守るための活動」の割合は過去 20 年間で大幅に低下

過去 20 年間で比較可能な「ボランティア活動」の行動者率の推移を主な種類別にみると、全ての種類で低下しており、特に「まちづくりのための活動」及び「自然や環境を守るための活動」が大きく低下している。(図 2-5)

図 2-5 「ボランティア活動」の主な種類別行動者率の推移(平成 13 年～令和 3 年)



注) 行動者率の高い 6 種類を表章

(5) 本県の「ボランティア活動」の行動者率は全国に比べて2.3ポイント高い

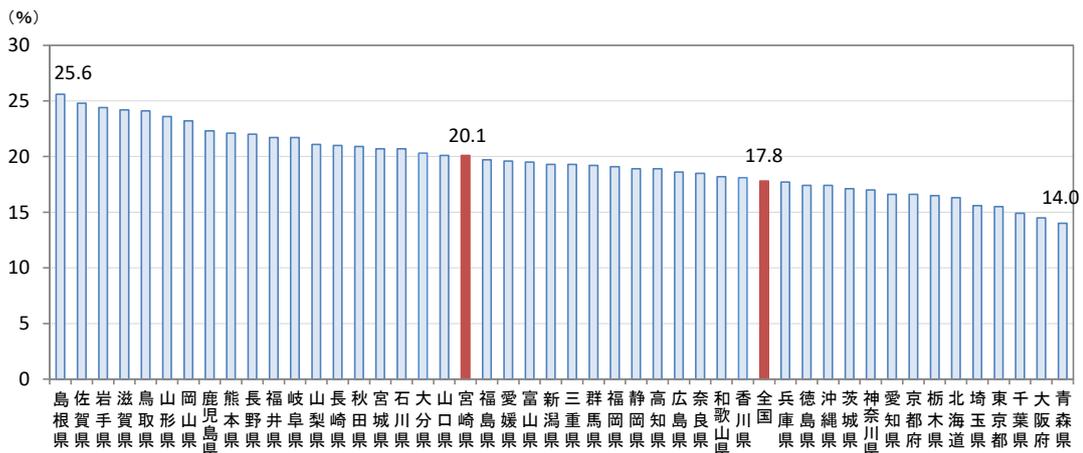
本県の「ボランティア活動」の行動者率は20.1%で、全国の17.8%に比べて2.3ポイント高く、全国19位となっている。

種類別行動者率を全国と比較すると、「高齢者を対象とした活動」及び「子供を対象とした活動」はそれぞれ全国5位となっており、次いで「障がい者を対象とした活動」が全国7位となっている。(表2-2、図2-6、図2-7)

表2-2 「ボランティア活動」の種類別行動者率の全国順位

	健康や医療サービスに関係した活動	高齢者を対象とした活動	障がい者を対象とした活動	子供を対象とした活動	スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動	まちづくりのための活動	安全な生活のための活動	自然や環境を守るための活動	災害に関係した活動	国際協力に関係した活動	その他	
全国	17.8	2.1	2.4	0.9	4.6	2.8	7.4	3.1	3.0	0.8	0.8	2.0
宮崎県	20.1	1.9	3.3	1.1	6.0	3.3	8.5	3.2	3.6	0.9	0.6	1.9
順位	19	29	5	7	5	8	30	26	18	13	18	24

図2-6 「ボランティア活動」の行動者率（都道府県）



3 スポーツ

(1) 「スポーツ」の行動者率は65.8%で、5年前より1.3ポイント上昇

「スポーツ」の行動者数は61万人で、行動者率は65.8%となっている。男女別にみると、男性が30万4千人、女性が30万6千人となっており、行動者率は男性が69.1%、女性が62.8%で、男性が女性より6.3ポイント高くなっている。

平成28年と比べると、行動者率は1.3ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が0.7ポイント低下、女性が3.0ポイント上昇している。(表3-1)

過去20年間の行動者率の推移をみると、平成23年までは低下していたが、平成28年から上昇している。(図3-1)

年齢階級別の行動者率をみると、45～54歳及び65～74歳を除く全ての年齢階級で平成28年を上回っている。(図3-2)

表3-1 「スポーツ」の男女別行動者数及び行動者率(平成28年、令和3年)

	行動者数(千人)			行動者率(%、ポイント)		
	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減
総数	616	610	-6	64.5	65.8	1.3
男	314	304	-10	69.8	69.1	-0.7
女	302	306	4	59.8	62.8	3.0

図3-1 「スポーツ」の男女別行動者数及び行動者率(平成13年～令和3年)

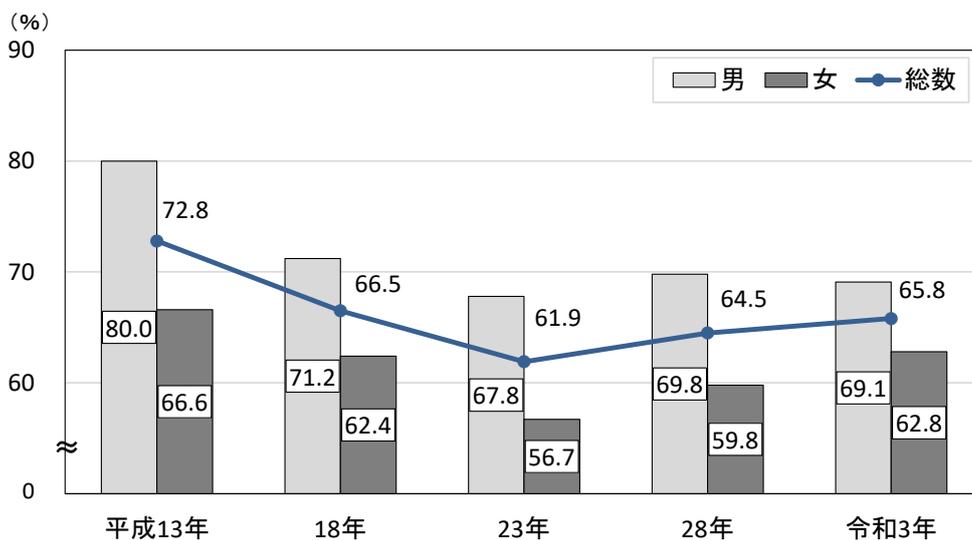
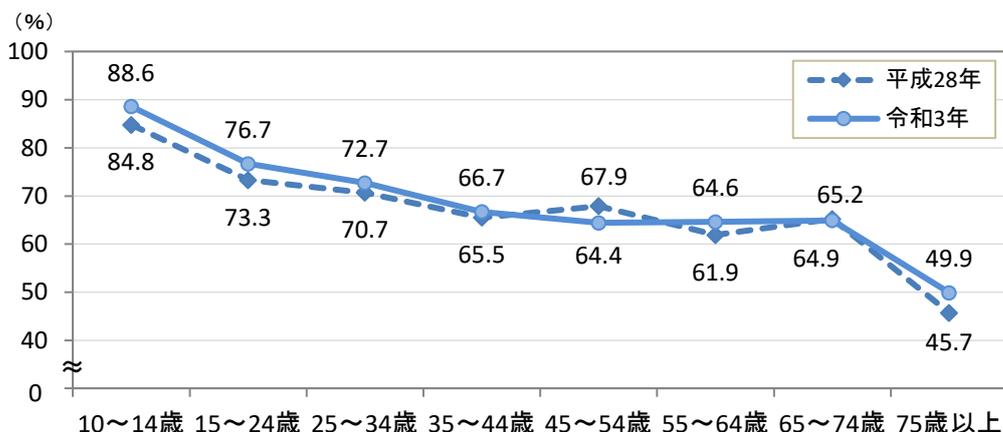


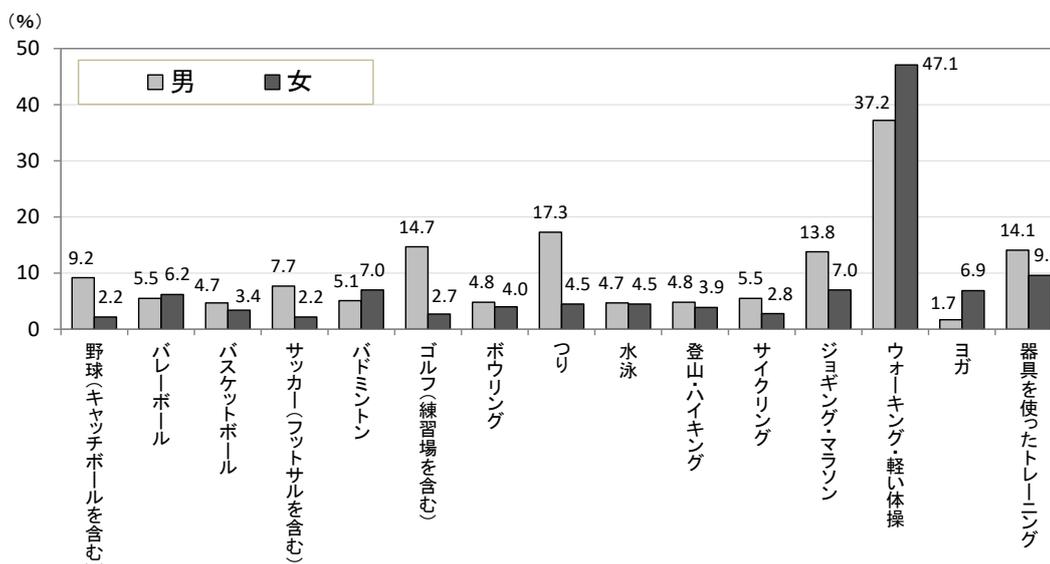
図3-2 「スポーツ」の年齢階級別行動者率(平成28年、令和3年)



(2) 男女ともに「ウォーキング・軽い体操」の行動者率が最も高い

「スポーツ」の種類別に男女別の行動者率をみると、男性は「ウォーキング・軽い体操」が37.2%と最も高く、次いで「つり」、「ゴルフ(練習場を含む)」の順となっている。女性は「ウォーキング・軽い体操」が47.1%と最も高く、次いで「器具を使ったトレーニング」、「バドミントン」及び「ジョギング・マラソン」の順となっている。(図3-3)

図3-3 「スポーツ」の種類、男女別行動者率

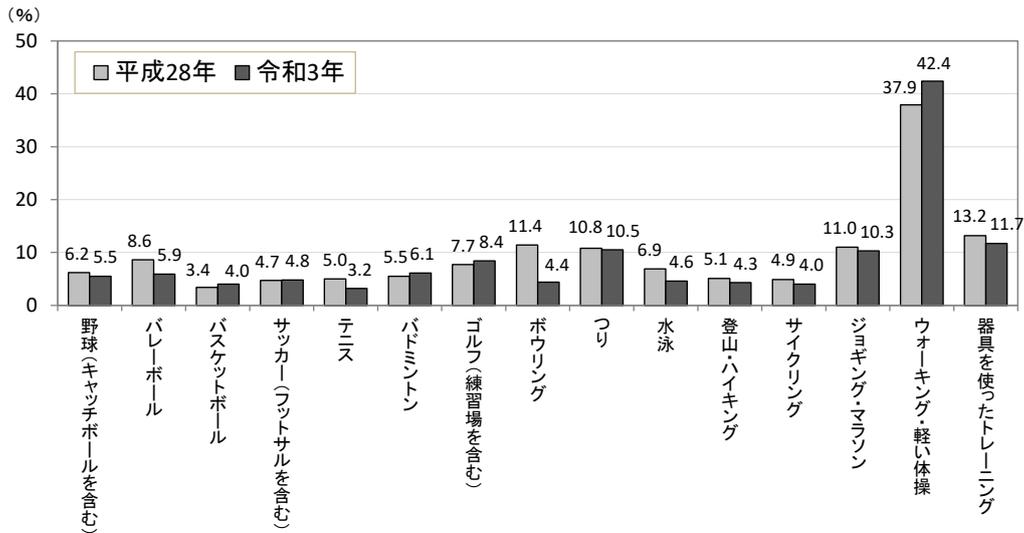


注) 行動者率の高い15種類を表章

(3) 「ボウリング」が5年前と比べて7.0ポイント低下

「スポーツ」の種類別行動者率を平成28年と比べると、「ウォーキング・軽い体操」は4.5ポイントの上昇、「ゴルフ(練習場を含む)」は0.7ポイントの上昇となっている。一方、「ボウリング」は7.0ポイントの低下、「バレーボール」は2.7ポイントの低下となっている。(図3-4)

図3-4 「スポーツ」の種類別行動者率（平成28年、令和3年）

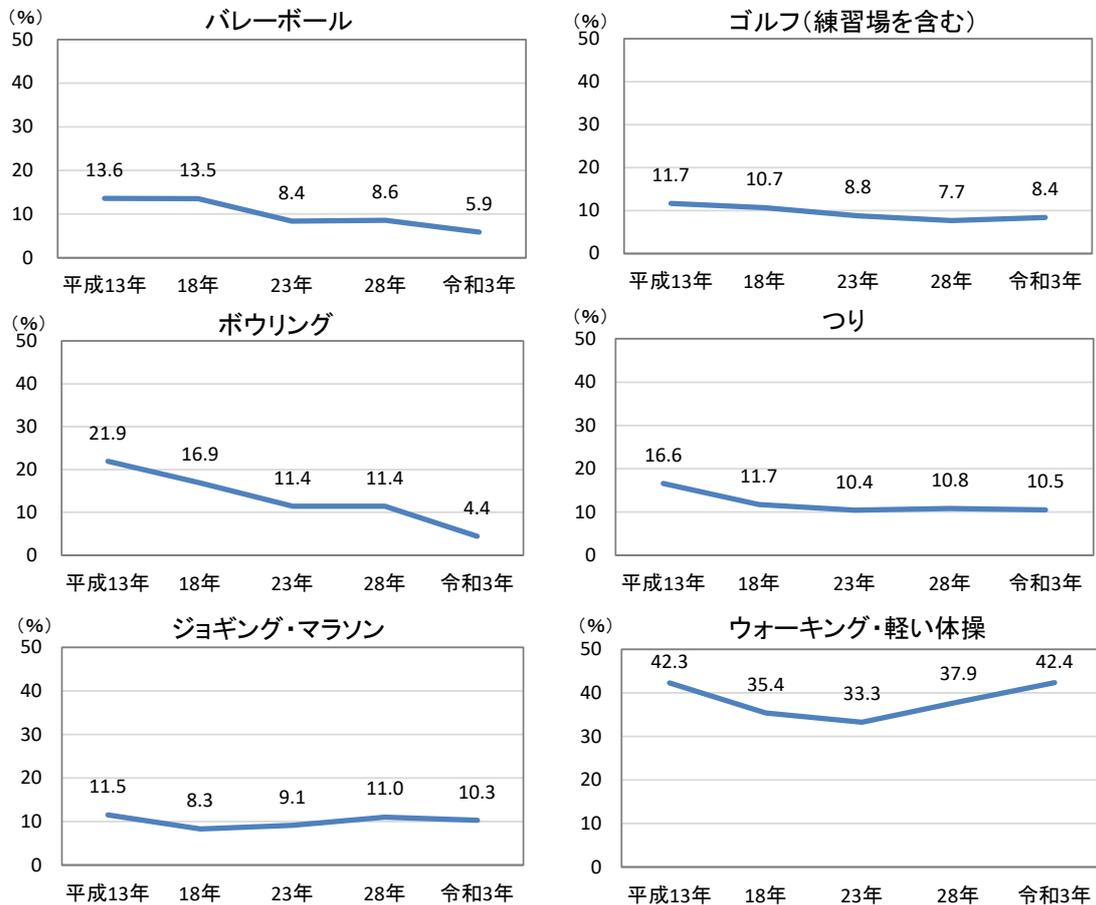


注) 平成28年と比較可能な行動者率の高い15種類を表章

(4) 「ボウリング」及び「バレーボール」の割合は過去20年間で大幅に低下

過去20年間で比較可能な「スポーツ」の行動者率の推移を主な種類別にみると、「ウォーキング・軽い体操」が過去20年間で最も高くなっている一方、「ボウリング」及び「バレーボール」は大幅に低下している。(図3-5)

図3-5 「スポーツ」の主な種類別行動者率の推移(平成13年～令和3年)



注) 過去20年間で比較可能な行動者率の高い5種類及び変動の大きい1種類を表章

(5) 「バレーボール」の行動者率は全国1位

本県の「スポーツ」の行動者率は65.8%で、全国の66.5%に比べて0.7ポイント低く、全国14位となっている。

種類別行動者率を全国と比較すると、「バレーボール」が全国に比べ2.4ポイント高い5.9%で全国1位となっている。次いで、「ゴルフ（練習場を含む）」が全国4位、「剣道」が全国5位となっている。（表3-2、図3-6、図3-7）

表3-2 「スポーツ」の種類別行動者率の全国順位

	総数	ソフトボール	バレーボール	バスケットボール	サッカー(フットサルを含む)	テニス	バドミントン	ゴルフ(練習場を含む)	グラウンドゴルフ	柔道	剣道	つり	ジョギング・マラソン	ウォーキング・軽い体操	ヨガ	器具を使ったトレーニング
全国	66.5	1.5	3.5	3.6	4.7	3.4	6.1	6.9	1.7	0.4	0.5	7.8	11.1	44.3	5.5	12.9
宮崎県	65.8	1.6	5.9	4	4.8	3.2	6.1	8.4	2.8	0.4	0.7	10.5	10.3	42.4	4.5	11.7
順位	14	17	1	13	13	17	16	4	10	14	5	7	17	17	23	27

注) 全国順位の高い15種類を表章

図3-6 「スポーツ」の行動者率（都道府県）

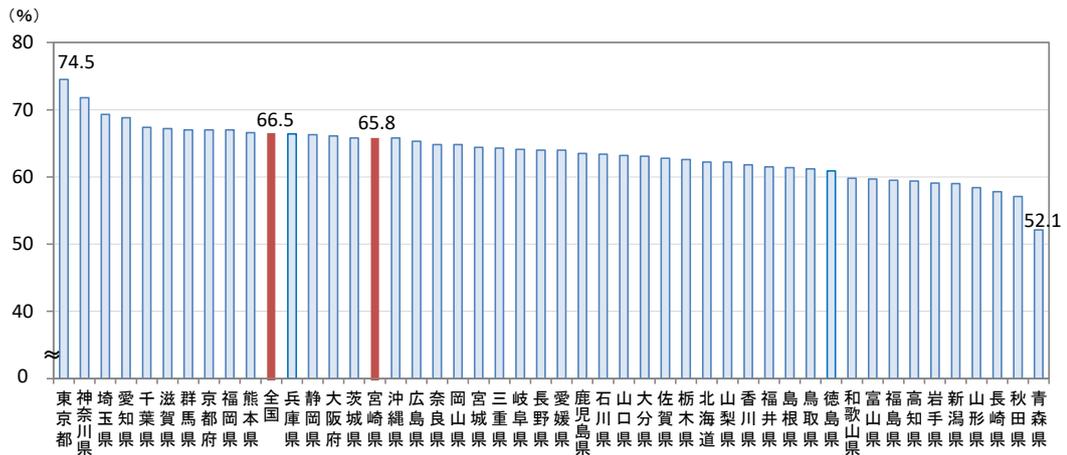
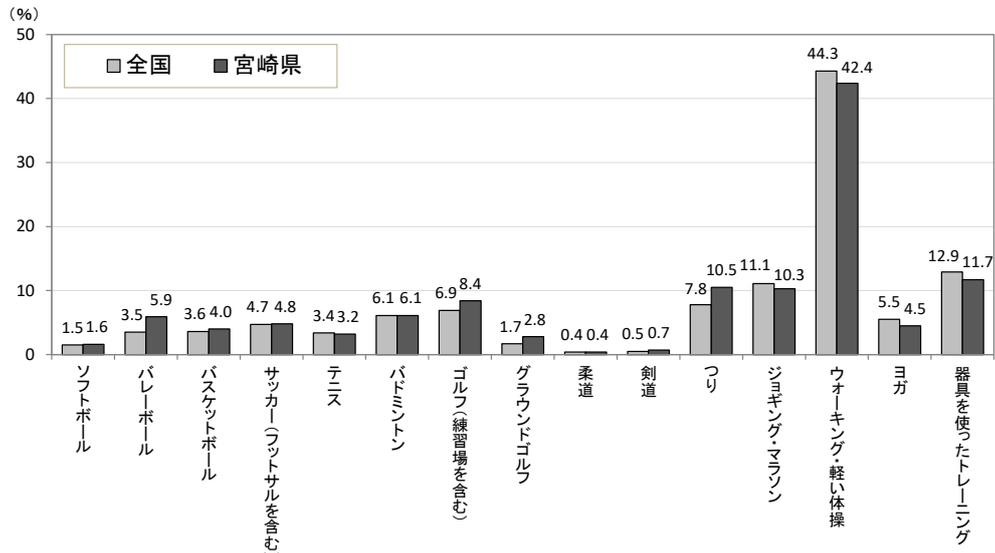


図3-7 「スポーツ」の種類別行動者率（全国、宮崎県）



注) 全国順位の高い15種類を表章

4 趣味・娯楽

(1) 「趣味・娯楽」の行動者率は81.6%で、5年前より0.6ポイント上昇

「趣味・娯楽」の行動者数は75万7千人で、行動者率は81.6%となっている。男女別にみると、男性が36万4千人、女性が39万3千人となっており、行動者率は男性が82.8%、女性が80.5%で、男性が女性より2.3ポイント高くなっている。

平成28年と比べると、行動者率は0.6ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が1.7ポイント上昇、女性が0.4ポイント低下している。(表4-1)

過去20年間の行動者率の推移をみると、平成23年までは低下傾向にあったが、平成28年からは上昇傾向にある。(図4-1)

年齢階級別の行動者率をみると、25～34歳、45～64歳を除く全ての年齢階級で平成28年を上回っており、特に10～14歳、35～44歳の年齢階級で上昇幅が大きくなっている。(図4-2)

表4-1 「趣味・娯楽」の男女別行動者数及び行動者率(平成28年、令和3年)

	行動者数(千人)			行動者率(%、ポイント)		
	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減
総数	773	757	-16	81.0	81.6	0.6
男	365	364	-1	81.1	82.8	1.7
女	409	393	-16	80.9	80.5	-0.4

図4-1 「趣味・娯楽」の男女別行動者数及び行動者率(平成13年～令和3年)

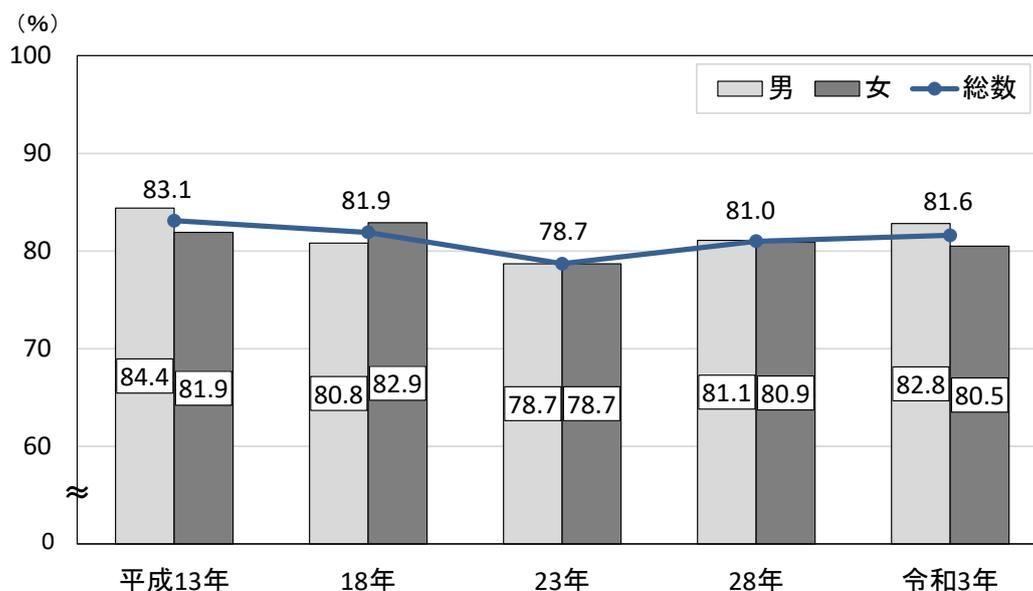
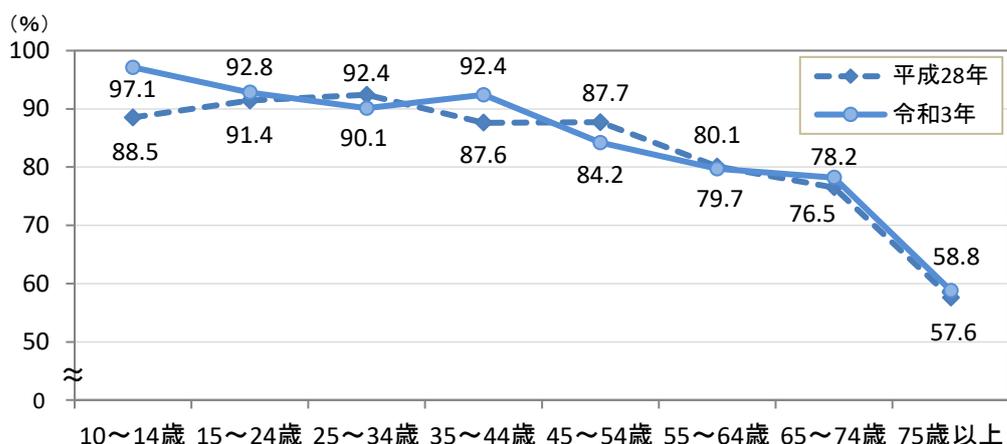


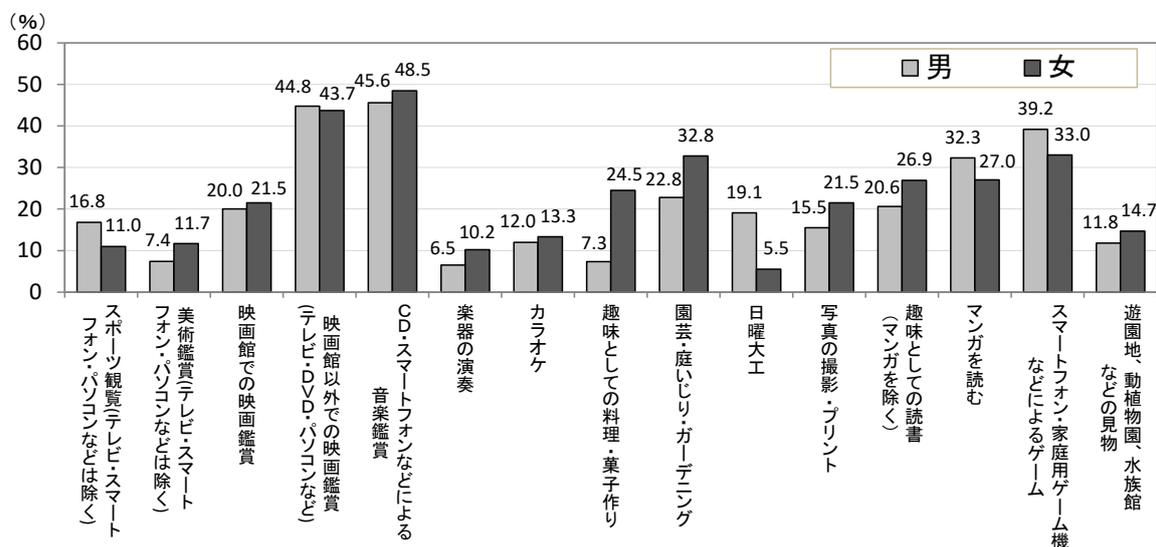
図4-2 「趣味・娯楽」の年齢階級別行動者率(平成28年、令和3年)



(2) 男女ともに「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」の行動者率が最も高い

「趣味・娯楽」の種類別に男女別の行動者率をみると、男女ともに「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が最も高く、次いで「映画館以外での映画鑑賞（テレビ・DVD・パソコンなど）」、「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」の順となっている。（図4-3）

図4-3 「趣味・娯楽」の種類、男女別行動者率

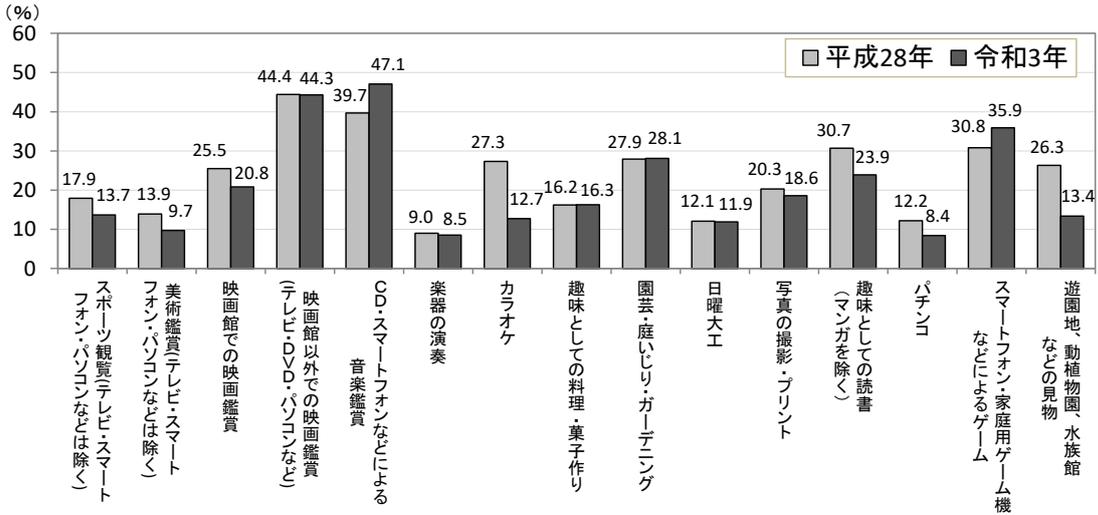


注) 行動者率の高い15種類を表章

(3) 「カラオケ」は5年前と比べ14.6ポイントの大幅な低下

「趣味・娯楽」の種類別行動者率を平成28年と比べると、「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」は7.4ポイントの上昇、「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」は5.1ポイントの上昇となっている。一方、「カラオケ」は14.6ポイントの低下、「趣味としての読書（マンガを除く）」は6.8ポイントの低下となっている。（図4-4）

図4-4 「趣味・娯楽」の種類別行動者率（平成28年、令和3年）

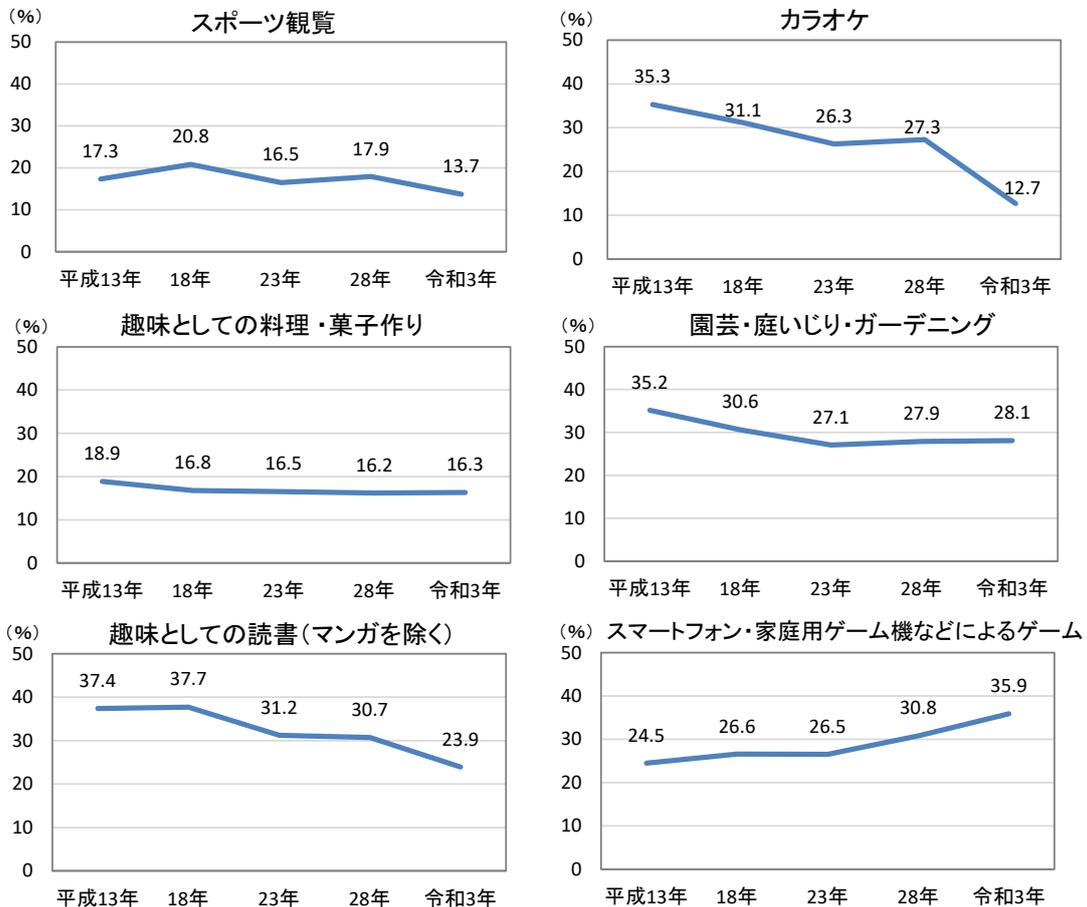


注) 平成28年と比較可能な行動者率の高い15種類を表章

(4) 「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」の割合は過去20年間で最も高い

過去20年間で比較可能な「趣味・娯楽」の行動者率の推移を主な種類別にみると、「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」は過去20年間で最も高くなっている。一方、「カラオケ」、「趣味としての読書(マンガを除く)」及び「スポーツ観覧」は最も低くなっている。(図4-5)

図4-5 「趣味・娯楽」の主な種類別行動者率の推移(平成13年～令和3年)



注) 過去20年間で比較可能な行動者率の高い6種類を表章

(5) 「パチンコ」の行動者率は全国3位

本県の「趣味・娯楽」の行動者率は81.6%で、全国の86.3%に比べて4.7ポイント低く、全国41位となっている。

種類別行動者率を全国と比較すると、「パチンコ」が全国に比べ2.1ポイント高い8.4%で全国3位となっている。次いで、「コーラス・声楽」が全国5位、「邦舞・おどり」が全国12位となっている。(表4-2、図4-6、図4-7)

表4-2 「趣味・娯楽」の種類別行動者率の全国順位

	総数	スポーツ観覧	美術鑑賞	コンサートなどによるクラシック音楽鑑賞	邦楽	コーラス・声楽	カラオケ	邦舞・おどり	華道	園芸・庭いじり・ガーデニング	日曜大工	絵画・彫刻の制作	陶芸・工芸	囲碁	パチンコ	キャンプ
全国	86.3	14.5	11.4	3.9	3.0	1.7	13.5	1.0	1.3	26.0	11.0	3.4	1.6	0.9	6.3	6.0
宮崎県	81.6	13.7	9.7	3.9	2.7	2.0	12.7	1.1	1.4	28.1	11.9	3.0	1.4	0.8	8.4	5.3
順位	41	20	26	13	21	5	22	12	20	20	14	23	24	26	3	25

注) 全国順位の高い15種類を表章

図4-6 「趣味・娯楽」の行動者率(都道府県)

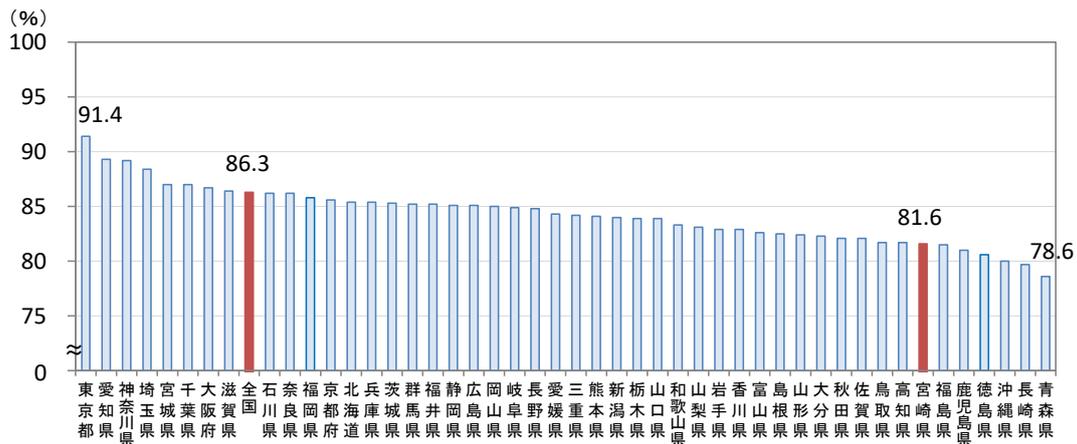
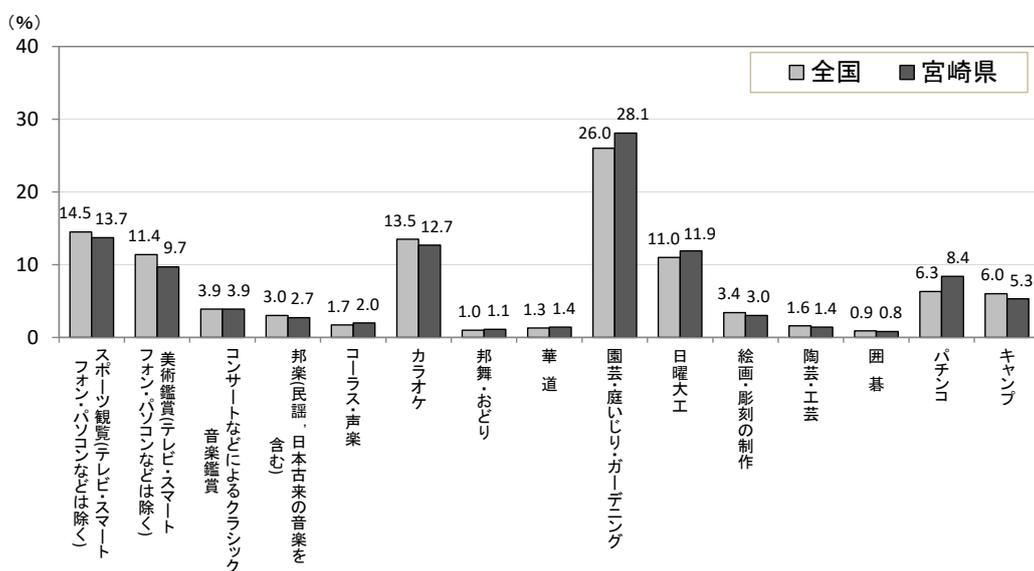


図4-7 「趣味・娯楽」の種類別行動者率(全国、宮崎県)



注) 全国順位の高い15種類を表章

5 旅行・行楽

(1) 「旅行・行楽」の行動者率は42.8%で、5年前から23.1ポイントの大幅な低下

「旅行・行楽」の行動者数は39万7千人で、行動者率は42.8%となっている。男女別にみると、男性が18万4千人、女性が21万4千人となっており、行動者率は男性が41.7%、女性が43.8%で、女性が男性より2.1ポイント高くなっている。

平成28年と比べると、行動者率は23.1ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が21.0ポイント、女性が25.0ポイントといずれも大幅に低下している。(表5-1)

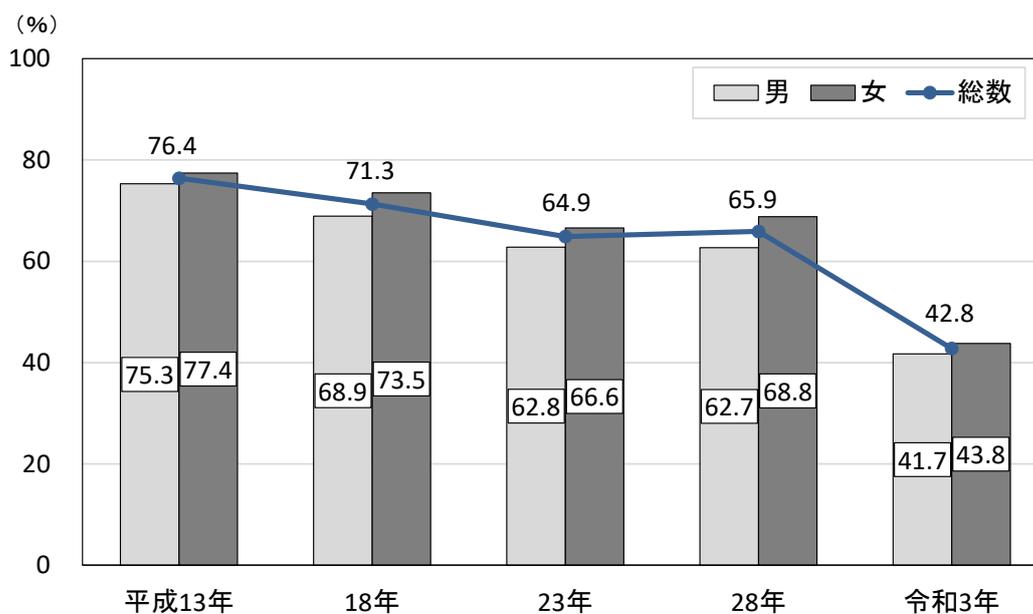
過去20年間の行動者率の推移をみると、平成23年までは低下が続き、平成28年に一旦上昇した後、令和3年は大きく低下している。(図5-1)

年齢階級別の行動者率をみると、全ての年齢階級で平成28年を大きく下回っている。(図5-2)

表5-1 「旅行・行楽」の男女別行動者数及び行動者率(平成28年、令和3年)

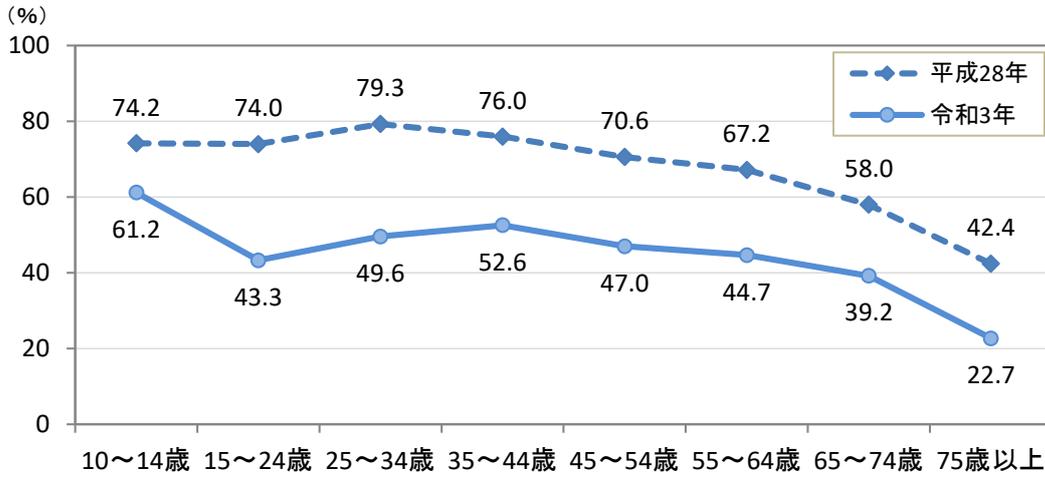
	行動者数(千人)			行動者率(%、ポイント)		
	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減
総数	630	397	-233	65.9	42.8	-23.1
男	282	184	-98	62.7	41.7	-21.0
女	348	214	-134	68.8	43.8	-25.0

図5-1 「旅行・行楽」の男女別行動者数及び行動者率(平成13年～令和3年)¹⁾



1) 平成13年～平成23年は「旅行・行楽」に「業務出張・研修・その他」を含めて調査しており、比較には注意を要する。

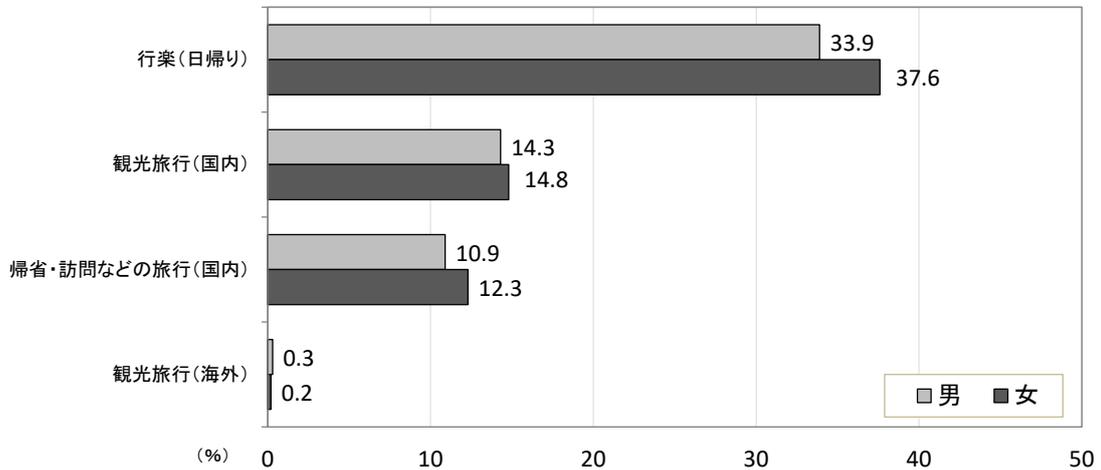
図5-2 「旅行・行楽」の年齢階級別行動者率(平成28年、令和3年)



(2) 「行楽（日帰り）」の行動者率は女性が男性よりも3.7ポイント高い

「旅行・行楽」の種類別に男女別の行動者率をみると、「行楽（日帰り）」は3.7ポイント、「帰省・訪問などの旅行（国内）」は1.4ポイント、「観光旅行（国内）」は0.5ポイントそれぞれ女性が男性よりも高くなっています。（図5-3）

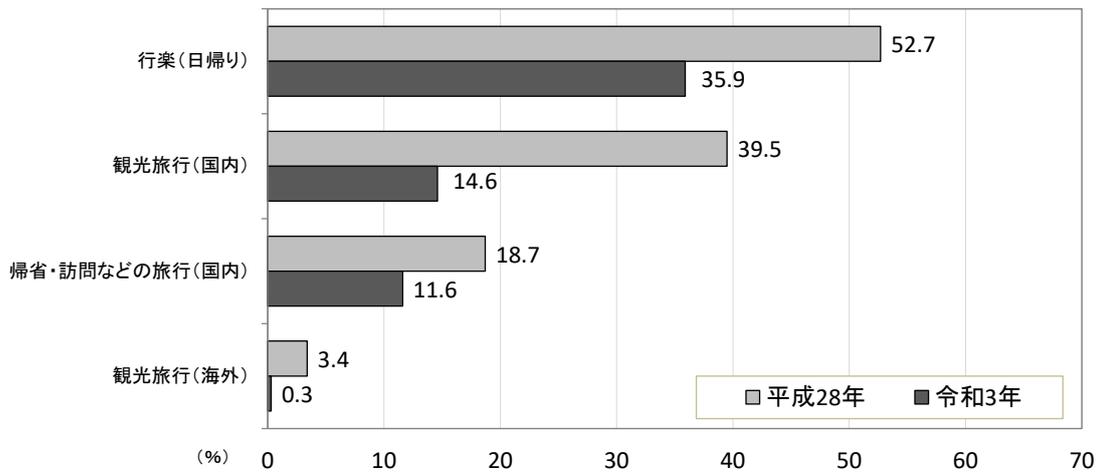
図5-3 「旅行・行楽」の種類、男女別行動者率



(3) 「観光旅行（国内）」は5年前と比べ24.9ポイントの大幅な低下

「旅行・行楽」の種類別行動者率を平成28年と比べると、全ての種類で大きく低下しており、特に「観光旅行（国内）」の低下幅が24.9ポイントと最も大きくなっている。（図5-4）

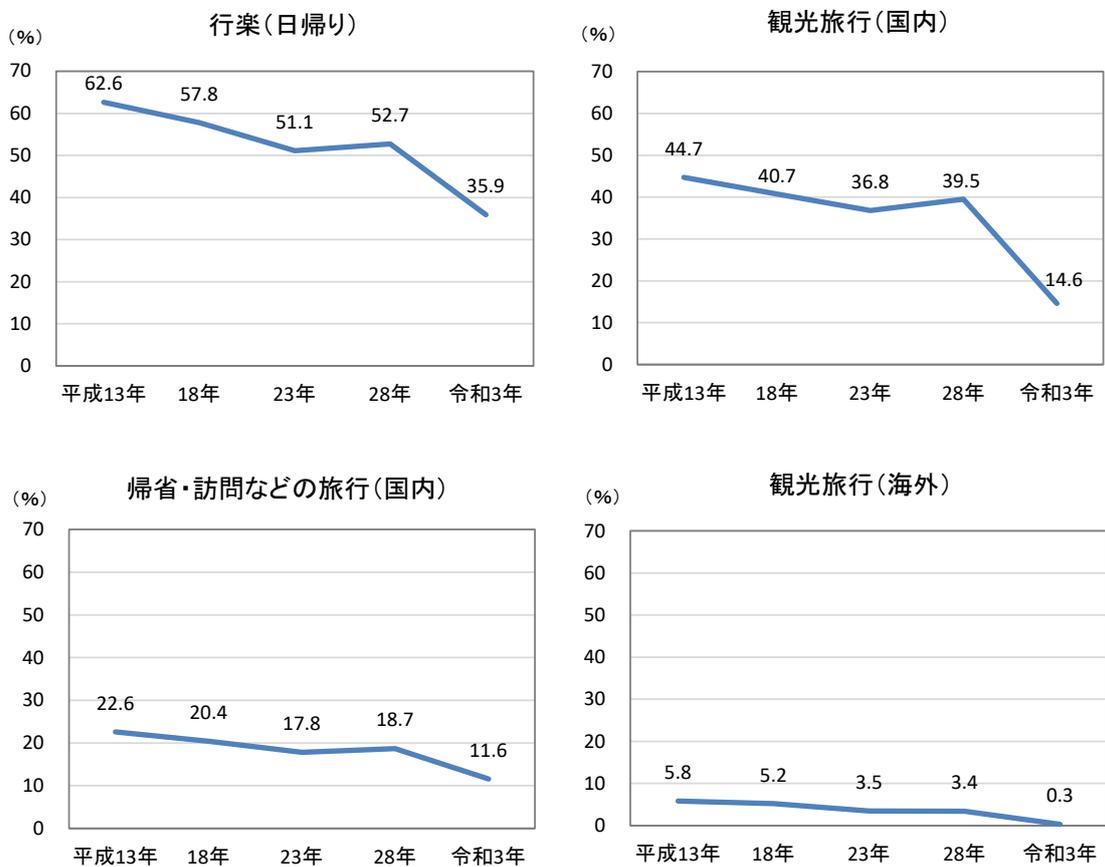
図5-4 「旅行・行楽」の種類別行動者率（平成28年、令和3年）



(4) 過去20年間における「旅行・行楽」の行動者率は、全ての種類で大幅に低下

過去20年間における「旅行・行楽」の行動者率の推移を種類別にみると、全ての種類で大きく低下しており、過去20年間で最も低くなっている。(図5-5)

図5-5 「旅行・行楽」の種類別行動者率の推移(平成13年~令和3年)



6 行動者率全国ランキング

学習・自己啓発・訓練			ボランティア活動			スポーツ			趣味・娯楽			旅行・行楽		
1	全国	39.6	1	全国	17.8	1	全国	66.5	1	全国	86.3	1	全国	49.5
2	東京都	52.8	2	島根県	25.6	2	東京都	74.5	2	東京都	91.4	2	愛知県	57.6
3	神奈川県	46.7	3	佐賀県	24.8	3	神奈川県	71.8	3	愛知県	89.3	3	東京都	55.5
4	京都府	43.5	4	岩手県	24.4	4	埼玉県	69.3	4	神奈川県	89.2	4	神奈川県	54.5
5	千葉県	42.0	5	滋賀県	24.2	5	埼玉県	68.8	5	埼玉県	88.4	5	京都府	54.2
6	大阪府	41.3	6	鳥取県	24.1	6	千葉県	67.4	6	宮城県	87.0	6	福岡県	52.3
7	埼玉県	40.0	7	山形県	23.6	7	滋賀県	67.2	7	千葉県	87.0	7	宮城県	52.2
8	奈良県	39.8	8	岡山県	23.2	8	群馬県	67.0	8	大阪府	86.7	8	滋賀県	52.2
9	滋賀県	39.7	9	鹿儿岛県	22.3	9	京都府	67.0	9	滋賀県	86.4	9	大阪府	51.9
10	兵庫県	39.5	10	熊本県	22.1	10	京都府	67.0	10	石川県	86.2	10	兵庫県	51.6
11	愛知県	39.0	11	長野県	22.0	11	熊本県	66.6	11	奈良県	86.2	11	埼玉県	51.5
12	広島県	38.4	12	福井県	21.7	12	兵庫県	66.4	12	福岡県	85.8	12	北海道	51.0
13	福岡県	37.7	13	岐阜県	21.7	13	静岡県	66.3	13	京都府	85.6	13	群馬県	50.8
14	宮城県	37.5	14	山梨県	21.1	14	大阪府	66.1	14	北海道	85.4	14	熊本県	50.5
15	佐賀県	37.2	15	長崎県	21.0	15	茨城県	65.8	15	兵庫県	85.4	15	奈良県	50.4
16	岡山県	37.1	16	長秋田県	20.9	16	宮崎県	65.8	16	茨城県	85.3	16	岐阜県	48.6
17	長野県	36.6	17	宮城県	20.7	17	沖縄県	65.8	17	群馬県	85.2	17	千葉県	47.9
18	沖縄県	36.6	18	石川県	20.7	18	広島県	65.3	18	福井県	85.2	18	新潟県	47.6
19	静岡県	36.5	19	大分県	20.3	19	奈良県	64.8	19	静岡県	85.1	19	佐賀県	47.5
20	茨城県	36.5	20	山梨県	20.1	20	岡山県	64.8	20	広島県	85.1	20	栃木県	47.3
21	山梨県	36.5	21	宮崎県	20.1	21	宮城県	64.4	21	岡山県	85.0	21	広島県	47.1
22	静岡県	36.5	22	福島県	19.7	22	宮城県	64.3	22	岐阜県	84.9	22	三重県	47.0
23	岐阜県	36.1	23	愛媛県	19.6	23	岐阜県	64.1	23	長野県	84.8	23	長野県	46.9
24	福井県	35.8	24	富山県	19.5	24	長野県	64.0	24	愛媛県	84.3	24	山梨県	46.7
25	熊本県	35.7	25	新潟県	19.3	25	愛媛県	64.0	25	三重県	84.2	25	岩手県	45.3
26	石川県	35.6	26	三重県	19.3	26	鹿儿岛県	63.5	26	熊本県	84.1	26	茨城県	45.0
27	群馬県	35.2	27	群馬県	19.2	27	鹿儿岛県	63.4	27	新潟県	84.0	27	茨城県	45.0
28	北海道	35.0	28	福岡県	19.1	28	山梨県	63.2	28	新潟県	83.9	28	秋田県	44.8
29	山口県	34.8	29	静岡県	18.9	29	山梨県	63.2	29	山口県	83.9	29	石川県	44.7
30	新潟県	34.5	30	静岡県	18.9	30	大分県	63.1	30	和歌山県	83.3	30	福島県	44.4
31	愛媛県	34.5	31	高知県	18.9	31	佐賀県	62.8	31	山梨県	83.1	31	山形県	44.3
32	三重県	34.4	32	広島県	18.6	32	栃木県	62.6	32	山梨県	83.1	32	福井県	44.3
33	鳥取県	34.4	33	奈良県	18.5	33	北海道	62.2	33	岩手県	82.9	33	和歌山県	44.1
34	徳島県	34.1	34	和歌山県	18.2	34	山梨県	62.2	34	香川県	82.9	34	和歌山県	44.1
35	香川県	34.1	35	香川県	18.1	35	香川県	61.8	35	富山県	82.6	35	山口県	43.5
36	富山県	33.4	36	兵庫県	17.7	36	福井県	61.5	36	島根県	82.5	36	鹿儿岛県	43.3
37	島根県	33.3	37	徳島県	17.4	37	島根県	61.4	37	山形県	82.4	37	岡山県	43.0
38	大分県	33.2	38	沖縄県	17.4	38	島根県	61.4	38	山形県	82.4	38	岡山県	43.0
39	栃木県	32.8	39	茨城県	17.1	39	徳島県	60.9	39	大分県	82.3	39	宮崎県	42.8
40	福島県	31.5	40	神奈川県	17.0	40	徳島県	60.9	40	秋田県	82.1	40	静岡県	41.3
41	和歌山県	31.3	41	東京都	16.6	41	和歌山県	59.8	41	佐賀県	82.1	41	富山県	41.1
42	宮崎県	31.3	42	愛知県	16.6	42	富山県	59.7	42	鳥取県	81.7	42	島根県	39.8
43	長崎県	31.2	43	京都府	16.6	43	福島県	59.5	43	高知県	81.7	43	高知県	39.2
44	山形県	31.1	44	栃木県	16.5	44	高知県	59.4	44	宮崎県	81.6	44	香川県	39.0
45	高知県	30.3	45	北海道	16.3	45	岩手県	59.1	45	福島県	81.5	45	鳥取県	38.4
46	秋田県	29.2	46	埼玉県	15.6	46	新潟県	59.0	46	鹿儿岛県	81.0	46	愛媛県	37.4
47	岩手県	28.9	47	東京都	15.5	47	山形県	58.4	47	徳島県	80.6	47	青森県	36.6
48	青森県	25.4	48	千葉県	14.9	48	長崎県	57.8	48	沖縄県	80.0	48	長崎県	36.1
49			49	大阪府	14.5	49	秋田県	57.1	49	長崎県	79.7	49	徳島県	32.2
50			50	青森県	14.0	50	青森県	52.1	50	青森県	78.6	50	沖縄県	31.1